

社会科学学習指導案

指導者 大西 弘員

日時 令和4年11月19日(土) 第1校時 9:20~10:10
年組 中学校 第3学年1組 計39名(男子19名,女子20名)
場所 中学校3年1組教室
題材 グローバル経済と金融

題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会科 公民的分野 B 私たちと経済(1)市場の動きと経済に重点を置いて指導を行う。特に「円安・円高の影響」については、私たちの日常生活と密接な関係がありながら、生徒が実際に「為替相場」を実感することが皆無に等しく、概念の習得が容易ではないため、知識・理解だけにとどまる場面が多く見受けられる。しかしながら世界的な新型コロナウイルスの流行やロシアによるウクライナ侵攻、また日本とアメリカの金融政策の違いなど、複合的な要因によって、2016~2021年の期間は1ドル=約120円前後で推移していた為替相場が、令和4年9月末現在、1ドル=約150円に迫っている。その結果、今年に入り食品や衛生用品、光熱費が相次いで値上げされ、私たちの家計に大きな影響を与えている。そのため、各種メディアにおいて「円安」の報道が連日のようになされているが、一方で海外市場をメインとする日本企業が、過去最高の営業利益をあげている例もある。このように「為替相場」の変動は、立場によって「理想の円相場」が変わることから、現在進行形の社会的事象を多面的・多角的に考察し、考えを深めることができる題材だと考える。授業では、立場によって変わる理想の円相場について考察する時間と、総合的に考えて1ドルは何円が理想的なのかについて考察する時間を設ける。このような段階を経ることで、教材研究の追体験をするとともに、生徒が学習した内容と実生活が結びつきやすくすることを意図としている。

本学級の生徒は、社会的事象への関心が高いだけでなく、ペアワークやグループワーク、ディベートなど協働的な学習を得意としている。そのため、「新しい人権」の単元では、尊厳死と臓器提供、出生前診断について、複数の立場で結論を出し、自己と他者で年齢が異なる事で違う結果になったのはなぜか?ということを議論し、「行政を監視する国会」および「行政の仕組みと内閣」の単元では、民主主義を守るために三権分立や議院内閣制の仕組みが取り入れられているが、野党が小規模な党の集まりの場合には、本当の機能を発揮できないのではないか?という結論にまで至ることができた。これは、偶然にもメンタリティーや価値観が似ている生徒が集まったため、表現活動が円滑に行われやすいことに起因しているからと考える。この傾向は社会科の授業以外でも、道徳や学活の場面で多く見受けられる。一方で意図的に偏ったものの見方や考え方をすることがあまりないため、自己完結しやすい傾向にあり、この単元を通して異なる極論から自分の考えにスコープする力を身に付けさせたいと考える。

指導にあたっては、前時の段階で「円高ドル安」や「円安ドル高」や「為替相場が変動する仕組み」などのインプットを予め行い、「1ドル=100円が120円になったが、これは円高ではないのか?」という誤認識や「輸出・輸入や海外旅行に行く・海外から来る場合には、どのような為替相場の状態が有利なのか?」についての確認を終えたうえで、本時の本題である「立場によって変わる理想の円相場 ~ 1ドル何円が理想的?~」に迫りたいと考える。そこから「円安のみならず円高も極端な場合にはメリットやデメリットが生じる」ということを理解させたい。

指導目標

- ・ 人や商品が国境を越える場合に、「円安ドル高」や「円高ドル安」が与える影響について理解をしたうえで、立場によって経済的な利益または損失が生じるかを考えると共に、利益の出る場合でも「持続可能なものであるか」考察できるようにする。
- ・ 自分の定めた立場から、最も理想的な為替相場を発見し、他者にわかりやすく説明できるようにするとともに、他者の意見から自分の意見を洗練することができるようにする。
- ・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それらを基に議論したりしようとする態度を養う。

指導計画（全7時間）

次	時	学習内容
1	1	・ 市場経済の決まり方（市場経済とは 需要・供給と価格の関係）
2	2	・ 価格の働き（市場経済における価格の動き 独占価格 公共料金）
3	3	・ 貨幣の役割と金融（貨幣の役割 お金の貸し借りと金融 金融の方法と働き）
4	4	・ 私たちの生活と金融機関（銀行の仕組みと働き 預金通貨 日本銀行の役割）
5	5	・ 景気と金融政策（景気とは 戦後の日本経済 日本銀行の金融政策）
6	6	・ グローバル経済と金融 （貿易と経済のグローバル化 為替相場 グローバル経済と金融）
7	7	・ 立場によって変わる理想の円相場～1ドル何円が理想的？～ 本時

本時の目標

立場によって理想とする為替相場が違うことをふまえて、総合的に考えて1ドル＝何円なのか？を工夫して表現することができる。【知識・技能】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

「円安」や「円高」には、それぞれ利益や損失の両面を招くことがあることを理解するために、現在の円相場だけでなく、「1995年の1ドル＝95円の円相場」と「ハンバーガー1個の価格」や「円高差益セール」、「貿易摩擦のようす」がわかる資料を導入で取り入れた。これらの資料を基に考えることで、「円安も問題だが円高も問題ではないか？」という課題を、生徒が捉えやすいのではないかと考えた。【授業構想力】導入によって、1995年と2022年現在の円相場の平均である「1ドル＝約120～122円」が理想的な数値ではないかと仮説を立てやすくする。【授業構想力】「1ドル＝約120～122円」の場合に、利益を生む場合と損失を招く場合の資料を複数提示し、生徒一人ひとりが理想的な為替相場を考察し表現する。そこに貿易相手国や持続可能性という要素を含んで、総合的に判断してどの立場でも理想的な円相場を見いだす【授業実践力】【授業分析・評価力】

学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
<p>1. パワーポイントをもとに前時で学習した「円安」や「円高」、人や商品が国境を越える時のメリットやデメリットを振り返る。</p> <p>2. 現在の円相場だけでなく、「1995年の1ドル＝95円の円相場」や、当時の「ハンバーガー1個の価格」や「円高差益セール」、「貿易摩擦のようす」から、「円安だけでなく円高の場合にも問題があること」を捉える。</p>	<p>○ ペアで前時の内容について振り返りをさせる。</p> <p>○ 「過度な円高にも課題があること」が理解できるように、資料を用意する。</p> <p>◆ 多面的・多角的に「円安」や「円高」について考察させる。【知識・技能】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p>どの立場でも理想的な円相場について設定することができる</p> </div>	
<p>3. 仮の円相場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1995年と現在の円相場の平均を出す。 ・1980年から約42年間の数値を参考に、長期間に渡って続いた円相場や中央値を算出する。など <p>4. 「1ドル＝約120～122円」の場合に、利益を生む場合と損失を招く場合を、資料から読み取る。</p> <p>5. 貿易相手国や持続可能性という要素を含んで、総合的に判断してどの立場でも理想的な円相場を見だし、全体で交流する。</p> <p>6. まとめとして、理想的な円相場は1ドル何円か設定する。</p>	<p>○ 設定した仮の円相場を交流しやすいよう、4人グループで数値を絞らせる。</p> <p>○ 複数の資料を提示し、思考・判断する材料を多く用意する。</p> <p>○ 多面的・多角的に思考・判断する材料を多く用意する。</p> <p>◆ 立場によって理想とする為替相場が違うことをふまえて、総合的に考えて1ドル＝何円なのか？を工夫して表現することができる。【知識・技能】</p>